

# 資料編



## 第 1 章 岡山市の概要

## 1. 地理と自然

岡山市は岡山県南部のほぼ中央、瀬戸内海に面した岡山平野に位置し、南北約45km、東西約35km、面積789.92km<sup>2</sup>、人口約71万人の都市である。南部には地味豊かな沃野が広がり、北部には吉備高原のなだらかな山並みがひろがっている。年間平均気温16.2℃<sup>※1</sup>と、瀬戸内海特有の温暖な気候と水や緑に恵まれ、春秋は快晴の日が多く、夏に本土を襲う台風は、急峻な四国山脈が防壁となってその影響は少なく、冬は大陸からの厳しい季節風を中国山地が遮って、積雪をみることは極めて稀である。年間平均降水量は1,105.9mm<sup>※2</sup>と比較的少ないが、中国山地に源を発し、瀬戸内海に注ぐ旭川と吉井川の2大河川の恩恵を受け、渇水となることはほとんどない。

※1 平成23年 ※2 昭和56年～平成23年の平均

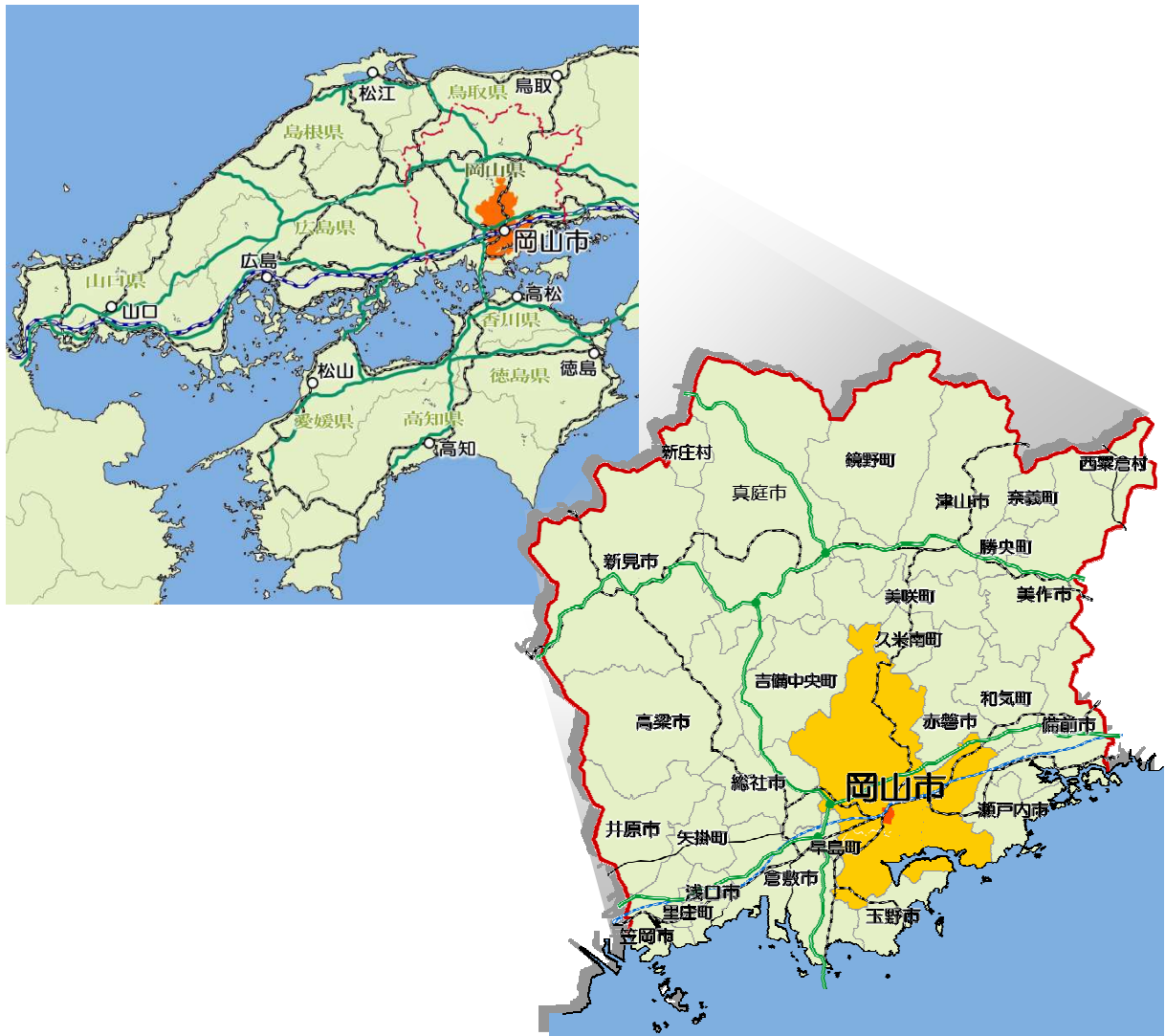


図 資 1-1 : 岡山市の位置

## 2. 歴史

### 1) 古代の岡山

岡山市域においては、旭川、吉井川の 2 筋の大河の下流域に形成された沖積平野上を中心に、古くから人々の生活が営まれてきた。このため市内には彦崎貝塚、津島遺跡、南方遺跡、百間川遺跡など、縄文・弥生時代の遺跡に恵まれているが、古代岡山を語る上で欠かせないものは、吉備勢力が残した歴史遺産である。吉備勢力は大和政権と拮抗する程の勢力を有していたと言われており、全国第 4 位の規模を有する造山古墳をはじめとする多くの巨大な前方後円墳の存在がそれを雄弁に物語っている。吉備国は 7 世紀末に備前・備中・備後 3 国に分割され、和銅 6 年（713）には備前国からさらに美作国が分割し、消滅してしまうが、岡山市西部から総社市にかけての地域には、古墳以外にも、古代の山城・鬼ノ城、吉備津神社・吉備津彦神社など、盛時の面影を偲ばせる文化財が今も数多く残されている。

奈良時代以降の律令制下においては、各国に行政府たる国府が置かれたが、備前国の国府は、中区国府市場周辺に想定され、一部が県の史跡に指定されている。肥沃な土地と瀬戸内海の水運がもたらす富を手中にすることができ備前国司（備前守）は都人の羨望のポストであった。

いまひとつ古代の備前の地の豊かさを示す好例として、鹿田荘を挙げることができる。鹿田荘は現在の岡山大学医学部鹿田キャンパス付近を中心に置かれた広大な荘園で、時の最高権力者・藤原摂関家の氏長者が代々受け継ぐ殿下渡領の一つであった。発掘調査や残された絵図により往時の姿が徐々に明らかにされているが、当時、海岸線は今よりもかなり内陸にあったため、鹿田荘の位置はちょうど旭川河川交通と瀬戸内海海上交通の結節点たる旭川河口部に当たり、商業活動が活発であったと考えられている。



津島遺跡(津島やよい広場)[国史跡]



造山古墳[国史跡]

### 2) 中世の岡山

平安時代末期の源平合戦期には、現在の南区妹尾付近を本拠とする妹尾兼康や、

北区一宮付近を本拠とする難波経遠・経房兄弟が平家方武将として活躍する。平家滅亡後の鎌倉政権下では、多くの坂東武士が守護や地頭として西国へ移住し、新たな領主層を形成していくことになる。

室町時代になると、備前・播磨などの山陽東部地区では、足利幕府四職に名を連ねる赤松氏（播磨・備前・美作守護）・山名氏（備後・伯耆守護）の両氏が領国を巡り熾烈な争いを展開する。嘉吉元年（1441）の嘉吉の乱により赤松氏が没落すると代わって山名氏が備前を含む山陰・山陽9カ国の守護職を手中にして全盛期を迎えるが、応



松田元成と大村盛恒の墓[県史跡]

仁の乱を機に赤松氏が盛り返し、文明2年（1470）頃までには播磨・備前・美作3国の守護職に返り咲いた。しかし山名氏も備前金川城（北区御津金川：城跡は市指定史跡）に本拠を置く松田元成<sup>もとなり</sup>と通じて赤松氏を攻め、再び3国を奪回する。この戦いで松田元成は負傷し、本拠に戻る途上、備前山ノ池（東区瀬戸町塩納）で家臣の大村盛恒とともに自害する。現在その地には両名の墓所と伝わる石塔2基が残されており、県の史跡に指定されている。

こののちも山名氏と赤松氏の攻防は続き、長享2年（1488）に山名氏が3国から撤退し、三たび赤松氏が守護に復活するが、時代はすでに下克上の風潮が支配する戦国時代に突入しており、赤松氏の支配は配下の守護代・浦上氏の台頭に脅かされることになる。

### 3) 戦国の岡山

浦上氏は備前国東部から播磨国西部に本拠を置く武士で、14世紀末頃から赤松氏の下で備前守護代を務めていたが、15世紀末頃から次第に勢力を伸ばし、主家を凌駕するほどになった。そして大永元年（1521）、浦上村宗が赤松義村を幽閉・殺害し、赤松氏の3国支配は事実上終焉する。しかし、赤松氏に代わって3国の実権を握った浦上氏の地位も安泰なものとはならなかった。一族内での対立により勢力が分割されたことに加え、自らと同様、<sup>きか</sup>麾下の武将の中にその地位を揺るがす勢力の萌芽があった。宇喜多氏である。

宇喜多氏の出自は定かではないが、備前国邑久郡豊原荘（瀬戸内市邑久）の土豪ではないかと考えられており、16世紀初めの頃、宇喜多能家<sup>よしいえ</sup>の代に浦上氏配下の最有力武将にのし上がり歴史の表舞台に登場する。天文3年（1534）、能家が島村盛実の襲撃を受けて自害して後は一時没落するが、その孫・直家の代に宇喜多氏は大躍進を遂げる。

直家は祖父の死後、備前・備後国内を転々としたのち天文12年（1543）、祖父の主家・浦上宗景に出仕し若くして邑久郡<sup>おとご</sup>乙子城主（東区乙子）に抜擢された。その後も数々の武功を挙げ、永禄2年（1559）には、義父・中山氏と祖父の仇敵・島村氏を謀殺して亀山（沼

城（東区沼）を奪い、以後これを居城とした。

その後直家は備中松山城の三村氏を、続いて備前金川城に拠る鎌倉以来の名家・松田氏とその一派を撃破して備前西部を支配下に収めた。さらに元亀元年（1570）には、岡山城を謀略により接収して、これを自らの居城とすべく大改修を施すとともに城下町の建設にも着手し、天正元年（1573）この地に移った。ここに「城下町・岡山」の歴史が幕を開けるのである。

こののち直家は中国の雄・毛利氏と結んで勢力を固め、ついに主家・浦上氏を滅ぼして備前・美作南部・播磨西部までを領する戦国大名に成長を遂げた。その後、織田信長の命で中国地方攻略に派遣された羽柴秀吉と講和して信長に帰属し、織田軍最前線で毛利勢と激しい攻防を繰り返し、その最中の天正9年（1581）、病により波乱の生涯に幕を閉じた。直家は正攻法よりも権謀術数を多用したため「戦国の梟雄<sup>きょうゆう</sup>」とおそれられるが、裸一貫から中国路有数の戦国大名にまでのし上がったその実力は、異彩を放っている。

#### 4) 近世の岡山

直家の死後跡を継いだ子の秀家は、豊臣五大老に列して政権の中枢に参画し、備前・美作両国と播磨3郡 57 万石余を領する大大名となった。秀家は未完に終わった父の岡山城・城下町建設を受け継ぎ、岡山城を天守閣を持つ近世城郭へ生まれ変わらせ、同時に城下町・岡山の都市的基盤を築き上げた。

関ヶ原合戦後、岡山城主は小早川家、池田家と代わり、池田忠雄の代に岡山城と城下町が完成し、また、岡山藩の石高も 31 万 5200 石と定まった。忠雄の子の光仲に代わって池田光政が岡山に入封してのち、岡山藩はその子孫が代々襲封した。

岡山藩政は池田光政の代に確立された。その治績は、家臣に領主権を分与する地方知行



宇喜多直家 戦災で消失した木像（写真提供：光珍寺）



宇喜多直家の居城跡 乙子城跡（上）、亀山城（沼城）跡



後樂園と岡山城天守閣



庭瀬藩板倉家の居城・庭瀬城跡



足守藩木下家の庭園・近水園[県名勝]

制から米・貨幣を与える俸禄制への転換といった行政機構・領内支配体制の抜本的改革、基本法令の制定、大規模な新田開発と農村整備・治水対策といった社会資本整備から、藩士の子弟のための藩学校設立・領民の教育施設である閑谷学校整備などの教育施策にまで及んだ。光政の跡を継いだ綱政は、貞享<sup>じょうきやう</sup>4年(1687)から14年の歳月をかけて、今日日本3名園のひとつとして名高い林泉回遊式の大名庭園・御後園を築造した。旭川を隔てて本丸のちょうど対岸を取り巻くように築かれているため、本丸の防備を強化する曲輪の役割を果たしているという説もある。御後園は明治4年(1871)に名称を「後樂園」と改めて一般公開され、明治17年(1884)に池田家から岡山県に譲渡された。

一方、現在の岡山市域内に相当する地域には他にも大名、旗本や岡山藩家老の陣屋町、宿場町、門前町や商業の町である在町が成立していった。大名陣屋町には庭瀬(戸川家のち板倉家2万石)、足守(木下家2万2200石)が、旗本陣屋町には高松(花房家7220石)、撫川<sup>なつかわ</sup>(戸川家5000石)、妹尾(戸川家1500石)、岡山藩家老陣屋町では金川(日置家1万6000石)、建部(森寺池田家1万石)があり、山陽道宿場町には藤井、板倉が、門前町では宮内(吉備津神社)が、在町には西大寺(観音院の門前町でもある)がある。

このように多くの町が形成されると、当然その間をつなぐ交通路が必要となり、岡山城下を中心にして多くの街道が整備されていった。起点となったのは城下栄町と紙屋町間の堀に架けられていた千阿弥橋で、いわば江戸という「日本橋」の役割を果たしていた。基幹道として城下を貫く西国の大動脈・山陽道があり、他に金比羅往来(岡山—茶屋町—下津井)、牛窓往来(岡山—西大寺—牛窓)、津山往来(岡山—金川—建部—津山)、鴨方往来(岡山—庭瀬—倉敷—鴨方)、倉敷往来(岡山—牟佐—林野)が整備された。



## 5) 近代の岡山

明治4年(1871)廃藩置県により岡山藩は岡山県となり、その後統廃合を経て明治19年(1886)にはほぼ現在の岡山県域が確定し、県庁は天神山の旧池田信濃守邸跡(鴨方藩邸跡)に建設された。

明治22年(1889)6月1日、面積5.77平方キロメートル、人口47,564人で市制を施行、「岡山市」が誕生する。以後、山陽鉄道(現:JR山陽本線)の開通(明治24年:1891)、旧制第六高等学校の開学(明治33年:1900)、陸軍第十七師団の設置(明治40年:1907)や旧制岡山医科大学の開学(大正11年:1922)などもあって、岡山市は、政治経済はもとより交通、教育文化、軍事、医療などさまざまな機能が集積する中枢都市として発展していった。市の中心部には意匠を凝らした数々の近代建築が軒を連ね、城下町時代の風情は残しながらも、近代都市としての体裁が徐々に整えられていった。

しかし、昭和20年(1945)6月29日の米軍大空襲により、市の中心部は一夜にして焦土と化した。戦後直ちに復興事業に着手し、市勢は飛躍的に回復する。高速交通網の整備も進み、昭和47年(1972)3月、山陽新幹線新大阪—岡山間が開業、3年後博多まで全通した。昭和63年(1988)4月には瀬戸大橋が開通し、自動車道・鉄道とも四国と結ばれた。平成5年(1993)には山陽自動車道岡山I.C前後の区間が、平成9年(1997)には岡山自動車道が開通し、岡山市は高速道路網・鉄道網とも、中国・四国地方を結ぶ広域交通網の結節点としての機能を担うこととなった。さらに平成23年(2011)3月には、九州新幹線博多—鹿児島中央間が全線開業し、山陽新幹線と直通運転が開始された。

また、明治以降、周辺市町村と計14回に及ぶ合併を実施し、市域を拡大してきた。近年



戦前の岡山市役所(上)と県庁(下)



大正時代の岡山駅



旧制第六高等学校

では平成 17 年（2005）に御津町、灘崎町と、平成 19 年（2007）に建部町、瀬戸町と合併し、現在人口は 70 万人を超えている。地方分権時代に対応し、平成 8 年（1996）には他の 11 市とともに全国初の中核市に指定され、さらに平成 21 年（2009）4 月 1 日には全国 18 番目の政令指定都市となり、新たなまちづくりの一步を踏み出した。

## 6) 児島湾の干拓

岡山市の歴史を特徴付けるもののひとつに、児島湾の干拓事業が挙げられる。児島湾干拓は秋田県の八郎潟干拓、九州の有明海沿岸干拓と並び、日本三大干拓と称される全国屈指の巨大事業である。

岡山市（岡山平野）南部の児島湾沿岸に広がる広大な耕地はそのほとんどが干拓（新田開発）によって生み出されたものであり、戦国末期までは、現在の国道 2 号線バイパス付近まで



沖新田干拓地

海が迫っていた。児島半島も瀬戸内海に浮かぶ島であったが、江戸時代初期の元和 4 年（1618）に備前中山藩の干拓事業により陸続きとなった。本格的な干拓事業は宇喜多秀家により始められるが、江戸時代に入ると、藩権力の安定、土木技術の発展や優れた指導者の登場を背景に、その規模は巨大化していった。

江戸時代の干拓事業は旭川から東の地域を中心に進められた。中でも現在の旭川～国道 2 号線バイパス～吉井川の地域を海から耕地へと変貌させた沖新田の開発は、藩主・池田綱政の命により津田永忠が手がけたもので、干拓面積 1,918ha という空前の規模を誇った。このほか、米倉、金岡、倉田、幸島、興除などの新田開発が行われ、その総面積は約 6,800ha に及んでいる。

明治以降の干拓事業は、初め職を失った士族に仕事を与える士族授産事業として計画され、内務省のオランダ人技師・ムルデルにより立案されたが、紆余曲折を経たのち、大阪の資本家・藤田傳三郎（藤田組）の手に委ねられた。干拓は第一区～第八区（但し四区・八区は実施されずに終わる）に分けて行われ、軟弱な地盤による難工事、財政難や小作争議など様々な問題に直面しながらも計画、実行されていった。第二次大戦を経て戦後には国営事業として農林省に引き継がれ、昭和 38 年（1963）に第七区の完成を以ってすべての工事が完了、これによって現在の岡山市南区藤田、灘崎、浦安、築港地区 5,486ha が陸地へと変った。この間、昭和 33 年（1958）には干拓地の水不足や塩害を解決するため、児島湾の中ほどを堤防で締め切り、その西側を巨大な人造淡水湖に変える大工事が竣工し、世

界有数の規模を誇る人造湖・児島湖が誕生している。

戦国末期からおよそ 400 年にもわたる干拓の歴史は、今でも堤防、樋門、石橋などの構造物や、興除、藤田、升田、政津、光津などの地名、沖田神社に伝わる様々な伝承などにその苦難の足跡をうかがうことが出来る。



図 資 1-2 : P. 73～歴史に登場する地名等の位置図

### 3 文化財

#### 1) 岡山市内の指定等文化財

岡山市内に所在する国・県・市の指定等文化財は下表のとおりである。

表 資 1-1 : 岡山市内の指定文化財数

分類		国指定	県指定	市指定	合計		
指定	建造物	建造物	9 (国宝1)	14	21	44 (国宝1)	
		石造美術	3	6	10	19	
	有形文化財	美術工芸品	絵画	6	5	4	15
			彫刻	4	8	9	21
			工芸品	31 (国宝4)	28	9	68 (国宝4)
			書跡典籍	1	3	4	8
			古文書	1	3	6	10
			歴史資料	2	0	6	8
			考古資料	3	3	1	7
			合計	60 (国宝5)	70	70	200 (国宝5)
	無形文化財	各個認定	0	3	0	3	
		保持団体等認定 (総合認定含む)	1	0	0	1	
		合計	1	3	0	4	
	民俗文化財	重要有形民俗文化財	0	2	8	10	
		重要無形民俗文化財	0	5	4	9	
		合計	0	7	12	19	
	記念物	史跡	18	14	12	44	
		名勝	1 (特別名勝1)	1	0	2 (特別名勝1)	
		天然記念物	3 (特別天然記念物2)	2	14	19 (特別天然記念物2)	
		合計	22 (特別名勝1、特別天然記念物2)	17	26	65 (特別名勝1、特別天然記念物2)	
選定	選定保存技術	0	0	1	1		
登録	登録有形文化財	66	—	—	66		
総合計		149 (国宝4、特別名勝1、特別天然記念物2)	97	109	355 (国宝4、特別名勝1、特別天然記念物2)		

( ) 内は特別史跡・特別名勝・特別天然記念物の件数。ただし内数。(平成24年9月25日現在)

## 2) 史跡・名勝一覧

指定等文化財のうち、史跡・名勝は、岡山城（国史跡）・後樂園（国史跡・特別名勝）のほか、全国4位の規模を誇る前方後円墳・造山古墳はじめ、古代古墳・寺院等の計19件の国史跡・名勝があり、県・市指定を含めると下表のとおり合計47件となる。

表 資料 1-2 : 岡山市内の史跡一覧

名称 [所在地]		所有者・管理者	指定日	概要
国指定				
1	岡山城跡 [北区丸の内・後樂園]	岡山市・岡山県・個人	S62. 5. 30 追加指定 H19. 2. 6	16世紀末に宇喜多秀家が築城した梯郭式平山城。完成は池田忠雄の寛政年間。別称烏城。
2	旧岡山藩藩学 [北区蕃山町]	岡山市他	T11. 3. 8	岡山藩主池田光政が寛文9(1699)年に設けた藩士子弟の藩校。講堂・校門・正門が遺存していたが、戦災で焼失。泮池現存。
3	津島遺跡 [北区いずみ町]	国(岡山県)	S46. 1. 5 追加指定 H14. 12. 29	岡山平野の初期農耕集落を示す遺跡。縄文晩期から古墳時代。弥生前期の水田が居住地と一体的に検出されている。
4	神宮寺山古墳 [北区北方]	天計神社他(岡山市)	S34. 5. 13	古墳時代前期の大型前方後円墳。吉備地方では珍しく全くの沖積地の立地。全長150m、後円部高13m、鉄器類の出土あり。
5	造山古墳(第1~6古墳) [北区新庄下]	岡山市・個人(岡山市)	T10. 3. 3	全長350mの古墳時代前期の巨大前方後円墳。全国4位の規模。前方部先に古式横穴式石室墳(千足古墳)・榊山古墳を含む6基の小墳が並ぶ。
6	大多羅寄宮跡 [中区大多羅]	布施神社(岡山市)	S2. 4. 8	岡山藩主池田綱政が正徳2(1712)年に藩内71社の寄宮の内66社を再統合して祀ったもの。寄宮は寛文の神社淘汰策で造立。
7	惣爪塔跡 [北区惣爪]	国(岡山市)	S3. 2. 7	田圃中に長径2m、短径1.5mの塔心礎が遺存。関連遺構は不明ながら、付近から天平瓦が出土。津臣関連の氏寺か。
8	真金一里塚 [北区吉備津]	国(岡山市)	S3. 3. 24	江戸時代の山陽道の一里塚。旧道を挟んで黒松を植えた北塚、榎木を植えた南塚が対をなして良好に遺存している。
9	高松城跡 附 水攻築堤跡 [北区高松]	岡山市・個人(岡山市)	S4. 12. 17	天正10(1582)年の中国役の主戦場となった城跡。羽柴秀吉の水攻めで著名。平城で郭の土壇と水攻め築堤の一部残存。
10	牟佐大塚古墳 [北区牟佐]	国(岡山市)	S5. 2. 28	古墳時代前期の吉備地方三大巨石墳の一つ。墳形は円墳。全長18mの横穴式石室に吉備特産の浪形岩の家形石棺を安置。
11	幡多廃寺塔跡 [中区赤田]	国(岡山市)	S19. 11. 7	県下最大の塔心礎が遺存。発掘の結果、寺院跡は白鳳時代後葉から平安時代後葉まで。東西123m、南北128mの寺域。
12	賞田廃寺跡 [中区賞田]	岡山市他	S47. 3. 16	備前国最古の寺院で、飛鳥末期~鎌倉期。寺院は一町四方。主要堂塔が判明し、最盛期は壇上積み基壇を採用。付近に瓦窯あり。
13	尾上車山古墳 [北区尾上]	岡山市他	S47. 7. 29	古墳時代前期の大型前方後円墳。当時の吉備の入江に突出した臨海性の古墳。全長約150m。三段築成で古

				式の様相を示す。
14	浦間茶白山古墳 [東区浅川・浦間]	個人他(岡山市)	S49.11.25	古墳時代前期の大型前方後円墳。勾玉・銅鏃・鏡・特殊器台形埴輪片の出土が知られている。全長約138mで前方部が撥形に開く古式の様相。
15	岡山藩主池田家墓所 附 津田永忠墓 [中区円山、備前市吉永町、和気町]	曹源寺・備前市・個人他	H10.4.8	岡山藩主(後)池田家の2代以降の墓所と菩提寺で、元禄11(1698)年に建立。広大な境内の臨濟宗曹源寺の禅宗伽藍を中心にして、他宗派の塔頭をも配置している。
16	万富東大寺瓦窯跡 [東区瀬戸町万富]	岡山市・個人	S 2.4.8 追加指定 H16.9.30	鎌倉時代、奈良東大寺大仏殿を再建する際の瓦を製造した窯のひとつで、丘陵の斜面に弓形に組み立てられている。
17	大廻小廻山城跡 [東区草ヶ部、瀬戸町観音寺・笹岡]	岡山市・個人ほか	H17.3.2	標高198.8mの独立小山塊の大廻山小廻山に所在する古代山城跡。
18	彦崎貝塚 [南区灘崎町彦崎]	個人	H20.3.28	瀬戸内海に面した旧児島湾の南岸に所在する、縄文時代前期から晩期にかけての貝塚。大規模で遺存状態がきわめて良好。
県指定				
19	撫川城跡(芝場城跡) [北区撫川]	岡山市他	S32.5.13	現況遺構は江戸時代初頭の庭瀬藩居城の一郭を、江戸時代前期に旗本知行所としたもの。野面積石垣と周濠が良好に遺存。
20	徳倉城跡 [北区御津河内]	岡山市	S33.4.10	遠藤山の頂上にある山城で本丸の石垣が良好に遺存。太平記に康安2(1362)年、高師秀が松山城からこの城に引きこもったとある。後に宇喜多氏の家臣遠藤河内が城主となり関ヶ原の没後廃城。
21	備前国庁跡 [中区国府市場]	岡山市	S34.3.27	前国府の国衙中心想定地。周辺に国長・国府市場等の関連地名が残り、一帯に方6町の府城が所在していたと推定される。
22	浄土寺 [中区湯迫]	浄土寺	S34.3.27	奈良時代の開基伝承の古刹。鎌倉時代初頭に重源の行政・民政・宗教活動の拠点となり、大湯屋があり、東大寺瓦出土。
23	倉安川吉井水門 [東区吉井]	岡山市	S34.3.27	吉井川と旭川を繋ぐ水運兼灌漑用の運河で延宝7(1679)年に完成。吉井川水門は取水口・舟だまり・出口水門・番所跡遺存。
24	伝賀陽氏館跡 [北区川入]	個人	S34.3.27	在地豪族賀陽氏の鎌倉時代の居館跡に推定。土塁圍繞の方形土壇と周濠跡が良好に遺存したが、現在は上部大半を失う。
25	坂古田古墳 [北区平山]	岡山県他	S34.3.27	古墳時代前期の大型前方後円墳。全長約150m。後円部径84m。2段築成を示す。背後に小型の円墳・方墳の古墳群があった。
26	緒方洪庵誕生地 [北区足守]	岡山市	S34.3.27	江戸時代末期の蘭方医洪庵の生誕地。足守藩士の子。大坂で適塾を開塾。一時足守に帰り近隣住民に種痘予防を実施した。
27	木下利玄生家 [北区足守]	岡山市	S34.3.27	白樺派の著名歌人木下利玄の生家。利玄は最後の足守藩主木下利恭の甥で、利恭の後の宗家を継ぐ。生家は藩陣屋区画内所在。
28	松田元成及び大村盛恒墓所	岡山市	S34.3.27	無縫塔は高さ1.38m、宝篋印塔は高

	[東区瀬戸町塩納]			さ 1.70m、いずれも花崗岩製。文明 16 (1484) 年 2 月 8 日、この地で自刃した金川城主・松田元成とその家老・大村盛恒の墓塔と伝えられる。
29	藤原成親遺跡(高麗寺山門跡と藤原成親墓地) [北区吉備津]	福田海本部	S35. 4. 26	鹿ヶ谷の変に連座し有木別所に配流された成親はこの地で暗殺された。供養の石塔が立つ。付近に高霊寺の礎石等遺存。
30	高松城水攻め鳴谷川遺跡 附 工事奉行の墓 [北区長野]	岡山市	S39. 12. 2	天正 10 (1582) 年の高松城水攻め時に、秀吉側が背後のこの地の谷川からも水を引こうとした施工場所。未完に終わる。
31	竹内流古武道発祥の地 [北区建部町角石谷]	個人	S51. 3. 27	天文元(1532)年美作国久米北条郡堀和郷一之瀬城主であった正五位上竹内中務大輔久盛が創始した古武道の発祥地で、柔道史の中では柔術の源流に位置する。
32	犬養家旧宅 [北区川入]	岡山県	S52. 4. 8	第 29 代内閣総理大臣犬養毅の生誕地。毅は安政 2 (1855) 年に当家で大庄屋の次男として生誕。5・15 事件で暗殺された。
33	田原井堰跡附田原用水路一部、百間の石樋、切り抜き [東区瀬戸町森末]		H5. 4. 23	津田永忠の事跡であり寛文 9 (1669) 年から 30 年かけて完成した用水施設。幅 80m、長さ 550m で吉井川を斜にせきとめ、切石約 62,000 個が使われた。現在のゲート式になるまでの 300 年にわたり下流の農業を支え続けた。
<b>市指定</b>				
34	平賀元義由縁の地 [東区大多羅]	布勢神社ほか	S30. 11. 1	幕末の国学者平賀元義の終焉関連地。布勢神社滞在中不慮の死をし、境内に歌碑・文庫跡・長歌碑・墓所等が所在している。
35	岡山孤児院発祥の地 [東区上阿知]	町内会	S30. 11. 1	社会事業家石井十次が明治 20 年にこの地で困窮者の子を引き取り、彼の岡山での孤児院救済教育の活動の緒になった。
36	神崎樋門(石) [東区神崎町]	町内会	S40. 6. 30	貞享 4 (1687) 年、享保 20 (1735) 年の花崗岩製。新田地帯の悪水排水用の堀割に設置された水門樋門石。治水状況を示す。
37	備前国総社 [中区祇園]	総社宮	S40. 7. 30	古代の備前国総社の後進の神社。境内は移動しておらず、江戸時代の建築の本殿・幣殿・釣殿・拝殿・隨身門が存していた。平成 4 (1992) 年隨身門を残して焼失。
38	加茂城二ノ丸跡 [北区加茂]	岡山市	S47. 3. 24	毛利方国境 7 城の一つ。天正 10 (1582) 年の備中の役で秀吉方に攻められて落城。高松城と同様の平城でこの二ノ丸土壇が残存。
39	横井上お台場遺跡 [北区横井上]	岡山市	S47. 3. 24	横井盆地最大の古墳時代前期の円墳。径 40m、高さ 3m。幕末に墳丘を利用して岡山藩がお台場を築成している複合遺跡。
40	宮山西塚古墳 [東区百枝月]	個人	H2. 4. 1	古墳時代後期の大型横穴式石室墳。墳形は円墳。径 25m。全長 13.5m の石室内に蓋を欠いた凝灰岩製家形石棺が遺存。
41	足守藩主木下家屋形構跡 [北区足守]		H14. 4. 10	往時を物語る建物は失われているが、石橋の残る堀割と近水園が良好に遺存しており、小藩の大名の屋形

				構を伝える貴重な遺跡である。
42	足守藩主木下家墓所 [北区足守]		H14. 4. 10	山地斜面を整地して土留めの低い石垣を築いただけの簡素なもので、墓塔も宝塔形の台定と利潔のものを除くとほかはいずれも墓塔・燈籠とも小型で質素なものである。6代藩主の台定以降の歴代藩主、藩主の子女及び利玄の父利永など一族の墓塔が総計 30 基あり、22 基の石造燈籠がある。
43	金川城跡 [北区御津金川・御津草生・御津下田]		H22. 7. 27	標高 225m. の臥龍山上に築かれた中世の山城で、松田氏の居城。
44	常山城跡 [南区迫川]		H22. 7. 27	三村氏の家臣上野氏の居城で、上野隆徳の妻・鶴姫が毛利軍と激突した女軍奮戦の地として知られる。頂上付近に鶴姫とその侍女を祀る 34 基の墓が残されている。
45	亀山城跡 [東区沼]	個人、青津八幡宮、岡山市	H24. 9. 25	沼城ともいう。宇喜多直家の戦国大名としての成長期の居城で、城郭規模や内容・由来が備前国内屈指のものである。

表 資 1-3 : 岡山市内の名勝一覧

名称 [所在地]		所有者・管理者	指定日	
国指定				
1	岡山後楽園 <b>【特別名勝】</b> [北区後楽園]	岡山県	特別名勝・名称変更 S27. 11. 22 名勝 T11. 3. 8 史跡指定 S62. 5. 30	元禄 13 (1700) 年に完成した岡山城の後楽園。初め茶園と称す。典型的な大名庭園で林泉回遊式になり、優美で格調高い造形。
県指定				
2	近水園 [北区足守]	岡山市	S34. 3. 27	足守藩主の庭園で陣屋に続く。小堀遠州流の池泉回遊式で江戸時代前期の作庭。宝永 5 (1708) 年の吟風閣が池辺に建つ。



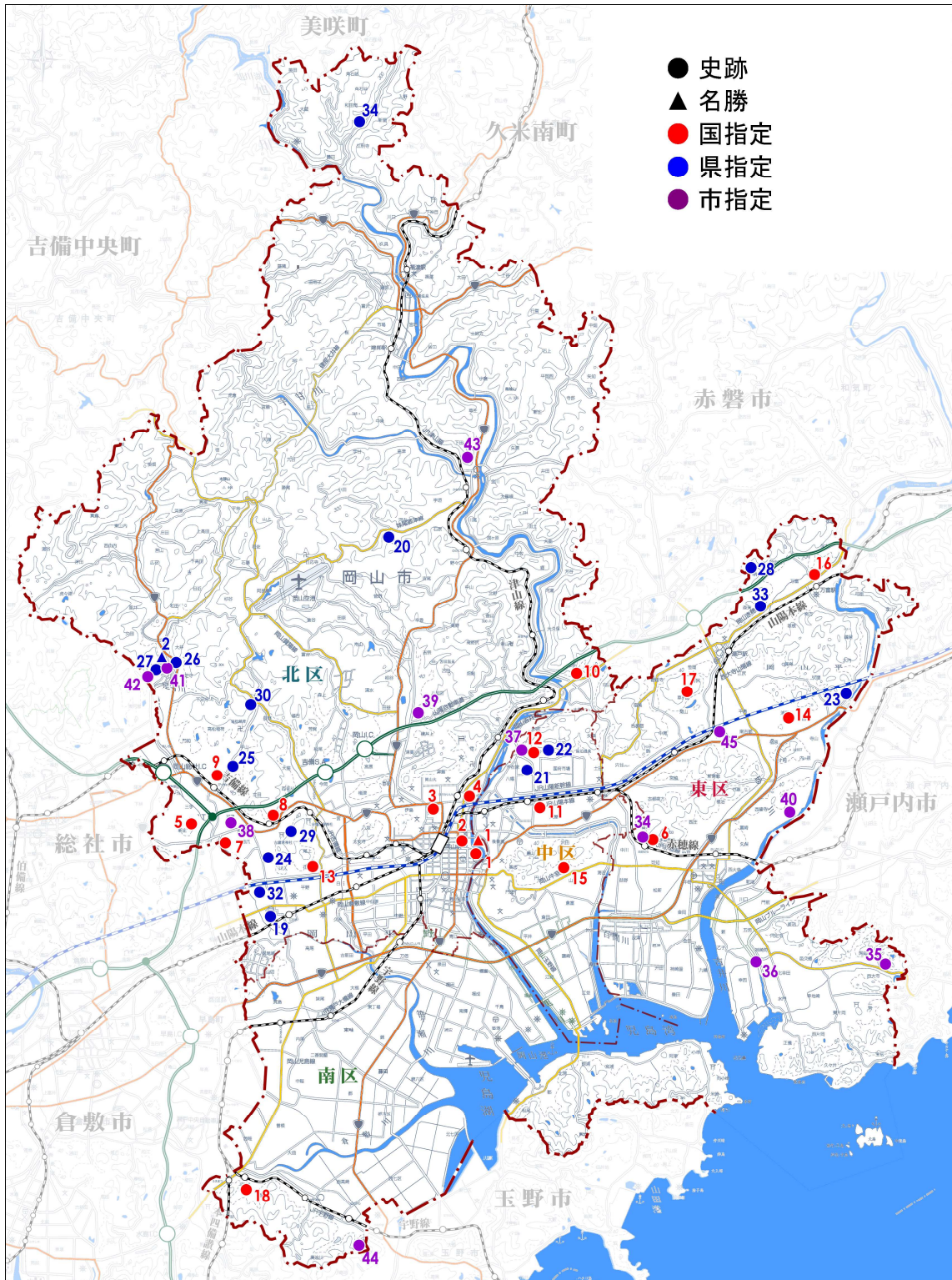


図 資 1-3 : 岡山市内の史跡・名勝位置図  
 (P. 81~P. 84 の「表 資 1-2、表 資 1-3」の番号と対応)

